

19	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17109010	造血システムにおける腫瘍性幹細胞およびその悪性化に関与する遺伝子の同定	赤司 浩一（九州大学・大学病院・教授）	A
<p>(意見等)</p> <p>全体的には、概ね順調に研究成果を上げつつあると評価できるが、今後、次の点に注意を払ってほしい。</p> <p>1) CLL stem cell については予想が外れたようであり、これに対して記載された方向性で軌道修正ができ、cancer stem cell の問題へ切り込めるのかは不明。</p> <p>2) AML については、申請者のオリジナルな業績である M c 1 で本当に leukemia が起こるのかを確認することが急務となっている。</p> <p>3) マイクロアレーについては、通り一遍のことが提案されている。実際、白血病の解析については、幹細胞も含めてこれまで多くのアレー研究が行われており、私が把握する限りネットサイトにも 500 を越すサンプルがデポジットされている。これまでとは違うどのような視点でこれに臨むのか、もう少し明確に記載してほしい。</p> <p>4) leukemogenesis 実験についての記載で、感染効率と遺伝子発現が明確に区別されない箇所がある。論理的な記載に心がけるよう。</p>				
20	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17109011	CD 2 6 の自己免疫病、免疫異常症の先端治療法としての分子標的療法の基礎的研究	森本 幾夫（東京大学・医科学研究所・教授）	A
<p>(意見等)</p> <p>CD 2 6 分子の基礎的解明研究は一定の成果を上げている。in vitro ・動物実験研究成果は着実に上がっており、ことに CD 2 6 のリガンドとしての caveolin-1 の意義における研究は評価できる。</p> <p>なお、この基礎的研究が生体における機能・病態形成に重要な役割を果たしているのか不明であり、また、臨床応用に関係した領域における研究成果は上がっておらず、本研究題目としての臨床応用研究としての取り組みが必要であり、一層の努力を期待したい。</p>				